

高知くらしの護身術

136

高齢者の家庭内事故

安全性高い商品活用を

(2009年7月7日掲載原稿)

高齢者の家庭内事故が増えています。高齢の場合、怪我をすると重症になりやすく、治療にも時間がかかりますので、事故の予防が大切です。

国民生活センターによると65歳以上の高齢者の事故のうち敷地内を含む住宅での事故が63%を越えています。具体的には階段や脚立、ベッドからの転落、床や浴室などでの転倒により、打撲や長期治療となる骨折を負う例が多く見られます。今回は主に転落や転倒での事故防止についてお知らせします。

怪我の原因場所は階段が最も多く、床、ベッド、浴室設備の順です。

事故を防ぐための注意点は、階段、廊下、玄関、浴室などに手すりを設け、段差をなくす工夫をしましょう。玄関では、段差を小さくするための式台などを置くとよいでしょう。暗いと転びやすいので明るい照明にして、足元灯を付けましょう。居室は整理整頓をし、床や階段などにつまずきそうな物を置かないようにしましょう。滑りやすい靴下やスリッパは履かないようにしましょう。

屋根の上や脚立、椅子を利用して高所でする作業はなるべく本職の人や若い人に頼みましょう。また、一人での作業は絶対にやめましょう。

使いやすく工夫されたユニバーサルデザインの物や高齢者向けの安全性の高い商品を上手に活用しましょう。

最後に死亡原因としてもっとも多いのが、やけどと窒息事故です。熱い湯の入った浴槽に転落したり、着ている衣服に火がついたことによるやけど、餅など粘りのある食品を食べての窒息事故にも注意しましょう。